

は じ め に

このたび、平成21年度の業績を、「福井県衛生環境研究センター年報（第8巻）」としてとりまとめました。御高覧のうえ、御意見・御指導を賜れば幸いです。

平成21年度は、4月にメキシコとアメリカで新型インフルエンザが発生し、瞬く間に世界各地、日本国内に広がり、県内でも7月に最初の患者が確認されました。

当センターは、遺伝子検査を実施できる県内唯一の機関として、その対応に追われました。

その内容については本編に掲載したとおりですが、新型インフルエンザに対応するため、県庁内に4月に「福井県健康危機管理警戒本部」が設置されたことを機に、当センターにおいても「福井県衛生環境研究センター健康危機管理対策指針」に基づき、「緊急時委員会」を設置し、検査結果の検証や確認、本庁への報告等にあたりました。

幸い、今回は病原性がそれほど高くありませんでしたが、今後、より病原性が高い新型インフルエンザの発生も懸念されており、今後とも危機対応に万全を尽くしていきたいと考えています。

当センターは、本県の保健行政や環境行政を科学的・技術的に支える中核機関として、「試験・検査・測定」、「調査・研究」、「研修・指導」、「情報の収集・解析・提供」を業務の四本柱としています。

近年、人的・予算的な制約が厳しさを増し、また、職員の世代交代が進む中で、従来の業務に加え、新型インフルエンザや食中毒、大気汚染、水質汚濁、廃棄物汚染等の危機対応業務が重要度を増しています。このことから県民の健康と快適な環境を守るための試験研究機関として、地域や行政のニーズに応える成果を目に見える形で生み出していかなければならないと考えています。

このため、センター全体としての総合的な業務遂行能力のレベルアップを目指し、ITを活用した情報の共有、所内研究発表会、職員研修等の実施や、研究課題評価等を通じて全職員の技術力の向上に努めているところです。

今後とも関係機関との連携を深めながら、より効率的で効果的な試験研究の実施に努めてまいりたいと思いますので、関係各位の皆様方の御指導・御鞭撻をよろしくお願いいたします。

平成22年11月

福井県衛生環境研究センター所長 坊 栄二